

## 第2回 北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議

1. 日時 令和3年3月4日(木) 10:00~12:00

### 2. 議事

- (1) 現地視察開催報告
- (2) R3年度各ルート協議会アクションプランについて
- (3) 北海道サイクルルート連携協議会の取組報告
- (4) ナショナルサイクルルートの候補ルートについて

### 3. 議事概要

#### (1) 現地視察開催報告・・・資料3

R2年10月10日、11日に実施した、羊蹄ニセコエリアサイクルルートの現地視察について、以下のとおり報告。

- ・1日目、羊蹄山を1周する「エゾイチコース」約53kmを試走。
- ・参加者はアドバイザー会議委員と全道のルート協議会の一部など。
- ・走行環境、休憩施設の整備状況やルートの見どころなどを視察。
- ・試走会を踏まえ、2日目に参加者との意見交換会を実施。
- ・アドバイザー会議委員からの助言のほか、試走会参加者からの感想やコロナ禍における他ルートの現状などについて意見交換。

#### (2) R3年度各ルート協議会アクションプランについて・・・資料4

各ルート協議会が作成しているアクションプランは、走行環境整備、受入環境整備、情報発信等について、進捗状況及び当年度の整備予定を記載しているもの。年度毎に作成することとし、今回はR3年度版としている。

各ルートの取組は以下のとおり。

##### 1) きた北海道ルート

- ・メイン事業のTEPPEN-RIDEは残念ながら中止。しかし、今後の実施に向け、関係者による試走を実施。コロナ対策などについて検討した。
- ・サイクルバスの導入が決定。レンタサイクルと連携し、長距離移動サポートや初心者向けプログラムを検討中。
- ・稚内市が年度内に自転車活用推進計画を策定予定。

##### 2) 阿寒・摩周・釧路湿原ルート

- ・サイクリストの移動サポートとしてサイクルタクシーなどで民間の協力を得ている。

- ・サイクリングマップの作成、活用。
  - ・基幹ルートと地域ルートとの一体化を検討。
  - ・e-bikeによる林道サイクル、スキー場を活用したマウンテンバイクなどアクティビティの発掘。
  - ・コロナで観光業が大きく打撃を受ける中、サイクリングはあまり減っていない。密を避けるツーリズム形態として期待できる可能性がある。
- 3) トカプチ 400
- ・地域における自転車観光の認知度向上が重要。
  - ・ゲートウェイの充実、帯広駅のバスターミナル「おびくる」でレンタサイクルも兼ねた観光案内や二次交通の案内。帯広空港での手ぶらレンタサイクルと荷物の搬送サービスを実施。
  - ・コロナを考慮したイベントの実施。2、3人を1グループとして、グループ対抗で獲得標高を競うという形態。
  - ・今後はサイクルステーション、宿泊施設の充実、感染対策マニュアルの作成、他ルートとの連携などをやっていきたい。
- 4) 富良野美瑛サイクリングルート
- ・基幹ルート基本として活動しつつ、10前後の地域ルートのPRも含めて支援。
  - ・ルートマップ、リーフレットのリニューアル中。
  - ・リーフレットでコース紹介、注意喚起、レンタサイクルなどの地域情報を掲載。
  - ・観光面のみでなく健康増進、環境負荷軽減という観点からも自転車の役割が高まっている一方、自転車事故が増えているということがあり、今後も走行環境整備、情報提供が重要。
- 5) オホーツクサイクリングルート
- ・女満別空港の民営化に伴い、レンタサイクル事業の展開等を検討しているが、コロナの影響で進んでいない。
  - ・ナビタイムと連携した地域ルートの紹介。
  - ・モンベルと連携したルートPRの実施。
  - ・子供向けの自転車教室開催、流氷ライドなど年間を通じた環境づくり、新たなサイクルイベントの開催等検討している。
- 6) 石狩北部・増毛サイクリングルート
- ・ルート沿線の4市町村と連携し、国内外の観光客誘致に向け、各種取組を実施。

- ・ フォトコンテスト開催、サイクルマップ作成、プロモーション動画作成などを進めている。
- ・ 北海道のサイクルツーリズム推進方針に基づき、R2 年度から国、道と連携し、案内看板、注意喚起の矢羽根整備を進めている。
- ・ 今後はイベント開催時や札幌駅等でマップや動画を活用したPRを進めたい。また、地域ルートにおいても標識や路面標示を進めていきたい。

#### 7) 羊蹄ニセコエリアサイクルルート

- ・ 今年度の視察して頂いた区間について、ルート案内看板の設置位置を検討しており、次年度から順次設置していきたい。
- ・ 今年度ガイド育成を実施。5名終了した。今後も継続的に行っていく予定。
- ・ イベント「ワンダーサイクリング」を秋に実施。50名程度参加したが、新型コロナウイルス感染症対策として、5名程度の少人数にグループ分けして行った。
- ・ ルート案内看板を工夫し、ルート毎にアイコンを変えている。更にそれぞれ連番を振ることで、マップと照らし、サイクリストが自分の位置を把握できる仕組みとしている。
- ・ 夏季使用していないニセコの除雪ステーションを休憩スポットとして有効活用する取組を行っている。今後もこういった取組を増やしていきたい。

#### 8) 石狩川流域圏ルート

- ・ 石狩川流域圏は非常に広いことから、平成26年、28年、30年と3回に分けてサイクルマップを作成している。
- ・ R2.10には恵庭から石狩までの試走会を実施。課題の把握等を行った。
- ・ R2.11には先進地視察の取組として、ナショナルサイクルルートである滋賀県のピワイチを視察した。

#### <委員からの主な意見>

##### ●加藤委員

- ・ ルート内で地元の自転車店などと連携し、手ぶらレンタサイクルが出来る就非常に良い。地元の活性化の観点からもぜひ検討してほしい。
- ・ コロナ禍で自転車が見直されている。観光客に加え、地元の人々も自転車に乗って頂くための取組も必要。

●高橋委員長

- ・ 今後サイクリストを受け入れるためにはコロナ対策が重要。各ルート毎、対策マニュアルを整備すべき。
- ・ 公共交通連携として、サイクルバス、タクシーの取組は良い。全道に展開して頂きたい。この会議で情報を一元化し、プラットフォームのようになると良い。公共交通連携はルートをもたぐ広域な移動や物流についても仕組み作りが必要。
- ・ 今後はレスキュー体制、サポート体制についても考えていく必要がある。何かあったときにサイクリストが自分の位置を知らせることが出来る仕組みにする必要がある。マップとキロポストをうまく使えるか、スマホを活用するか。また、タクシーなどで迎えにいく体制も重要。
- ・ インフラ整備について、グレーチングなど危険箇所もある。路面管理の水準をサイクリスト目線で考えていく必要がある。

●萩原委員

- ・ トンネル、橋、カーブなどの安全対策は非常に重要。重大事故につながる可能性がある。特にトンネル。
- ・ 自転車側のルール遵守も重要。啓発も含めて地域で考えてほしい。
- ・ サイクリストにも観光客にも、風向き含め天気の情報が必要。

●宮内委員

- ・ 道内の各サイクルルート間にはミッシングリンクがある。北海道縦断、ケープ to ケープも含め、最終的には全道のネットワーク化を目指し、ミッシングリンクを解消してほしい。ネットワーク化により、隣接するルートから相互に誘客が期待される。
- ・ キャッチフレーズについて、ルートの魅力が伝わるものになっているか。短いキャッチフレーズと具体的な説明、コンセプトが必要。
- ・ ルートの価値の証明として、第三者による外部評価や定量的なデータ収集が重要。新聞、雑誌、オンラインメディアなど。自転車交通量やイベント等でのアンケート調査など、データを収集、保存する必要がある。
- ・ 第1次指定されているナショナルサイクルルートの3ルートは是非視察し参考にしてほしい。
- ・ 北海道でも導入されてきている e-bike の活用が重要。ターゲットの幅を広げることができる。

●屋井委員

- ・ レンタサイクルの実績など、利用者数やその属性も含め、利用状況については整理して頂くと良い。
- ・ 北海道の雄大な自然を感じたいという時に、右左折の多いルートだと、ルート設定の意図がサイクリストに伝わるか懸念される。ルート設定にはそれぞれ合理的な理由があるが、サイクリストのニーズと一致するかという観点もある。今後地域ルートを設定する際にも意識して検討してほしい。
- ・ ビワイチの自転車専用通路というのは新しい言葉で、植栽帯を削って路肩を広げるなど、面白い事例になっている。ニセコの国道5号についても一部路肩を広げることで安心度が向上する。
- ・ 各ルートのコンセプトのほか、北海道全体のコンセプトもあっていい。北海道一丸となって全体の魅力を高めることもできる。各ルート差別化する部分と一体でやる部分と分ければ良い。

●矢ヶ崎委員

- ・ 感染症対策については、北海道のサイクルルートとして、統一的な少し高いレベルで管理する必要があることから、ガイドラインのようなものが必要。サイクリングの観光行動全体を見渡し、感染リスクが高まるところで、「しっかりやっています」と見せられることが重要。
- ・ ターゲットについて、今来ている観光客はその属性をしっかりと把握しておく必要がある。コロナ禍でも来ているということは、これからも来てくれる客になる可能性がある。
- ・ インバウンドが戻るまでの時間は思っているほど長くない。既に諸外国との競争が始まっている。具体的な準備としては、国内在住の外国人の方々に来て頂くと良い。
- ・ もう一つ準備としてはオンラインツアーがある。コロナ後に行きたいと思わせるもの。英語の名称と説明も必要。英語圏のネイティブな頭で考えたものである必要がある。その他の言語についても要検討。

(3) 北海道サイクルルート連携協議会の取組報告・・・資料5

1) 北海道開発局建設部道路計画課

- ・ 基幹ルート統一マップのマニュアルを作成。過去の会議等の意見や道内各ルート及びNCRの既存マップを参考にしつつ取りまとめている。各ルートでも既に作成しているマップと棲み分けを図りつつ、来年度以降具体的に作成を行っていく。

- ・ 道路管理用の CCTV による自転車交通量調査を試行。目視観測の他、AI を活用した観測も実施。結果今回の調査では AI 観測の誤差が大きく、実用化に向けて有識者にアドバイスを求めるなど、引き続き検討が必要。
  - ・ ルート上の休憩施設は 20km に 1 箇所以上整備するのが望ましいとされているが、広大な土地を有する北海道では疎な地域が存在する。各ルート 20km 以上休憩施設がない箇所を抽出した。今後この休憩施設空白地帯を一部解消するため、コンビニとの連携等を検討していきたい。
- 2) 北海道商工会議所連合会
- ・ 北海道商工会議所連合会が事務局を務めるサイクルツーリズム北海道推進連絡会は、本道へのサイクルツーリズムの誘客促進を目的として、平成 24 年度に設立。
  - ・ 道内のサイクリングコースなどを掲載している冊子を年 1 回作成。HP も運営おり、サイクルレースやイベント情報などについて周知を行っている。
  - ・ サイクルイベントの千葉県のサイクルモードインターナショナル、埼玉県の高尾サイクルエキスポに出展。大阪でも予定していたがイベント自体が延期になっている。
  - ・ 道内企業と協力し、台湾で行われたイベントで冊子の繁体字版を配布。海外からの誘客促進を図る PR 活動を実施している。
- 3) シーニックバイウェイ支援センター
- ・ サイクルツーリズムの拠点整備に取り組んでいる。札幌ではゲストハウステントテン札幌ステーションと連携し、札幌駅北口に整備。電動アシスト付を含むレンタサイクルや当該拠点を起点としたガイドサイクリング、情報提供などを実施。500 円で着替えスペース、シャワー、タオルも使用可能。
  - ・ 日本サイクルツーリズム推進協会と連携した「サイクリングガイド養成講座」、北海道サイクリング協会と連携した「サイクリングリーダー養成講座」の開催及び開催支援を実施。全道各地で 2020 年も 4 回開催している。
  - ・ 広報・プロモーションとしては WEB サイト「サイクルート北海道」を運営。また、国内外の会社と連携してインバウンドを含めたサイクリングツアーを企画したが、COVID-19 の影響で国内向け 1 件を除き中止。

- ・海外とのオンライン会議を複数回開催しており、海外の自転車需要がますます高まっていると聞いている。的確な情報提供とガイド育成など今から準備しておくことが重要と考えている。
- ・道内各地のサイクルイベントに対し、人的な部分、企画運営面、広報といった支援を実施。イベントの多くは中止になっているが、北海道サイクリング協会と連携し、北海道縦断サイクリングを企画、今後実施する方向で検討中。

#### 4) 北海道経済部観光局

- ・北海道では、自転車活用推進法、北海道自転車条例、北海道自転車利用活用推進計画を背景に、地方創生推進交付金を活用し、令和元年度からサイクルツーリズム推進事業を実施。
- ・サイクルルート、受入施設、宿泊施設の情報を集約してデータベース化。英語、繁体字にも適用し、令和3年度にオープンデータ化を予定。
- ・自転車輸送方法の検証として、公共交通機関を活用した自転車輸送方法を組み込んだモニターツアーを知床～釧路、富良野、倶知安の3箇所を実施。
- ・サイクリング周遊拠点の整備として、自治体や観光協会に希望調査を実施。サイクルステーションにサイクルラック等の備品整備を支援。32団体に支援した
- ・倶知安町、南富良野町の2箇所でサイクルツーリズムに関するオンラインセミナーを開催。令和3年度はコロナ対策として、サイクルツアーに関する感染防止対策などの普及啓発セミナーを予定。

#### (4) ナショナルサイクルルートの候補ルートについて・・・資料6

1月29日、ナショナルサイクルルート候補ルートの選定について発表された。トカプチ400を含む、3ルートが候補になっている。現在第三者委員会にて審査中。今後委員による現地視察を予定。指定されると国などによるプロモーションなどのメリットがある。

トカプチが400指定された場合は、北海道全体のサイクルツーリズムの活性化が期待される。